



第158号
平成28年6月

発行／喜茂別町議会
編集／議会広報編集委員会

●平成二十八年第一回定例会

議会だより

●もくじ

審議された議案と結果……………	P 2
一般質問……………	P 7
総括質疑 要旨……………	P 9
(表紙写真 保育所入所式)	



平成28年第1回定例議会

審議された議案と結果

第1回定例会は、3月10日から17日までの8日間の会期で行われ、冒頭、町長から国勢調査の速報値、喜茂別町健康増進センターの愛称決定とフィットネス利用状況並びにふれあい福祉センターの活用、高齢者の状況把握、新町章制定の進捗状況、本年度の滞納処分の実施状況についての行政報告がありました。会期中、町政・教育執行方針に基づく、町長、教育長に対する総括質疑、予算特別委員会（越後耕司委員長）で、平成28年度各会計の予算案が審議されたほか、人事案件2件、条例の制定及び一部改正、補正予算など、議案30件、発議案2件、決議案1件、意見書1件が審議され、いずれの案件も原案のとおり可決されました。

議案第1号

平成28年度一般会計予算
予算総額28億9千1百13万4千円

原案可決

議案第2号

平成28年度国民健康保険特別会計予算
予算総額8千7百55万7千円

原案可決

議案第3号

平成28年度介護サービス事業特別会計予算
予算総額2千6百40万円

原案可決

議案第4号

平成28年度後期高齢者医療特別会計予算
予算総額3千7百14万6千円

原案可決

同意第1号

教育委員会委員の任命同意

木内 勝 男さん 字双葉37番地の1

任期 平成28年4月1日から

平成32年3月31日まで

原案同意

議案第5号

平成28年度簡易水道事業特別会計予算
予算総額1億8千5百39万5千円

原案可決

同意第2号

固定資産評価委員会委員の選任同意

増村 弘 明さん 字鈴川254番地の2

任期 平成28年5月9日から

平成31年5月8日まで

原案同意

議案第6号

平成28年度公共下水道事業特別会計予算
予算総額1億4千82万2千円

原案可決

議案第7号

ふるさと応援寄附条例の制定

ふるさと納税に対応した寄附の受け入れを行うため条例を制定するものです。

原案可決

議案第11号

地方公務員法及び地方独立行政法人法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理等に関する条例の制定

地方公務員法及び地方独立行政法人法の一部を改正する法律の施行に伴い、職員に対する寒冷地手当の支給に関する条例、職員の旅費に関する条例、職員の勤務時間、休暇等に関する条例、一般職の任期付職員の採用及び給与の特例に関する条例の文言等の一部を改正するものです。

原案可決

議案第8号

ふるさと応援基金条例の制定

ふるさと応援寄附条例の制定に伴い、その寄付金を適正に管理運用するため、基金の設置に関する条例を制定するものです。

原案可決

議案第9号

すこやか住宅の設置及び管理に関する条例の制定

地域の高齢化等により、生活環境の保持が困難にある地域等に安心して住み続けられるよう地域が協力して快適な暮らしを実現させることを目的とした賃貸住宅の設置に伴い、必要な管理規定等を定める条例を制定するものです。

原案可決

議案第13号

職員の給与に関する条例の一部改正

地方公務員法の改正及び行政不服審査法の施行に伴い、本条例の一部を改正するものです。

原案可決

議案第10号

行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備等に関する条例の制定

行政不服審査法の改正に伴い、固定資産評価審査委員会条例、情報公開条例、個人情報保護条例、手数料徴収条例、特定個人情報保護条例の一部を改正するとともに、引用されている本町の条例名の変更及び文言等の改正を行うものです。

原案可決

議案第14号

町税条例の一部改正

税制改正大綱で個人番号の利用の取り扱いを見直す方針が示されたこと及び行政不服審査法の改正に伴い、本条例の一部を改正するものです。

原案可決

議案
第15号

証人等に対する実費弁償に関する条例の一部改正
農業委員会等に関する法律の改正に伴い、本条例の一部を改正するものです。

原案可決

議案
第16号

特定公共賃貸住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正

正
特定公共賃貸住宅駐車場の維持管理と修繕費用の一部として、また近年の民間アパート建設による近隣の民間住宅との料金の均衡を図るため、駐車場使用料の徴収に関する事項を定めるものです。

原案可決

議案
第17号

簡易水道事業等特別会計条例の一部改正

簡易水道事業の統一に伴い同条例の標題を改正するものです。

原案可決

議案
第18号

簡易水道給水条例の一部改正

簡易水道事業の統一に伴い現状の3地区の水道料金を統一するために改正するものです。

原案可決

議案
第19号

公共下水道条例の一部を改正

簡易水道事業の統一に伴い本条例の文言の一部を改正するものです。

原案可決

議案
第20号

国民健康保険条例の一部を改正

税制改革大綱により、平成27年度に地方税法施行例で規定されている賦課限度額を平成28年度から引き上げることに伴い改正するものです。

原案可決

議案
第21号

後志広域連合規約の変更

後志広域連合に加盟している一部の町村が平成28年3月から「介護予防・日常生活支援総合事業」に取り組むことにより、関連する事業名等を変更するものです。

原案可決

議案
第22号

ようてい地域消費生活相談窓口運営協議会規約の変更

消費者安全法の改正に伴い、地方公共団体における消費生活相談体制を強化するために、消費生活センター等に消費者からの苦情に係る相談・斡旋に従事する消費生活相談員を置くことなどの措置により関連する規定を変更するものです。

原案可決

議案
第23号

過疎地域自立促進市町村計画の策定

国の制度を有効に活用しながら過疎地域の自立促進に向けた取組を引き続き実施していくため平成28年度から5年間の計画を策定するものです。

原案可決

議案
第24号

平成27年度一般会計補正予算
(第10回)

減債管理基金積立金5百万円、公共施設整備基金積立金1千2百31万9千円、自治体セキュリティ強化対策事業等1千3百80万円、胆振線代替バス運営費補助金3百52万8千円、農村環境改善センター非常用電源設備整備設計業務委託料5百万円、農村環境改善センター非常用電源設備工事7千5百万円、後志広域連合負担金3百43万9千円、双葉地区基幹水利施設管理事業負担金1百83万2千円、機構集積協力金事業交付金1百71万8千円、経営体育成支援事業補助金2百14万5千円、除雪費委託料4百40万円等の増額と水の郷きもべつまちづくり振興事業補助金等7百8万7千円、障害福祉サービス費等給付費8百61万5千円、北海道後期高齢者医療広域連合負担金5百21万2千円、未来につなぐ森づくり推進事業補助金2百25万円、事業費確定による不用額等の減額により、3千4百20万8千円を増額し、予算総額は、29億4千1百26万2千円となります。

原案可決

議案
第25号

平成27年度国民健康保険特別会計補正予算
(第1回)

基金積立金1千9百万2千円の増額と後志広域連合分賦金9百62万円、事業費確定による不用額の減額により、8百62万2千円を増額し、予算総額は1億1千6百34万9千円となります。

原案可決

議案
第26号

平成27年度介護サービス事業特別会計補正予算
(第1回)

通所介護等事業費の委託料1百58万6千円を減額し、予算総額は2千7百75万7千円となります。

原案可決

議案
第27号

平成27年度後期高齢者医療特別会計補正予算
(第1回)

不用額30万円を減額し、予算総額は3千8百21万5千円となります。

原案可決

議案
第28号

平成27年度簡易水道事業特別会計補正予算
(第3回)

電気料34万8千円の増額と事業費確定等による不用額63万8千円の減額により、予算総額は1億8千8百38万3千円となります。

原案可決

議案
第29号

平成27年度公共下水道事業特別会計補正予算
(第3回)
事業費確定による不用額等1百14万9千円を減額し、
予算総額は1億2千4百44万9千円となります。
原案可決

議案
第30号

平成27年度年度一般会計補正予算
(第11回)
担い手確保・経営強化支援事業補助金1千50万円を増
額し、予算総額は、29億5千1百76万2千円となります。
原案可決

発議案
第1号

議会広報発行に関する条例の一部改正
広報紙の充実を図るため、委員長等の報酬を引き上げ
るものです。
原案可決

発議案
第2号

議会情報公開条例の一部改正
行政不服審査法の改正に伴い、必要な文言等を一部を
改正するものです。
原案可決

決議案
第1号

飲酒運転撲滅宣言の決議
交通事故のない安心で安全な社会の実現に向け、飲酒
運転を根絶させる宣言を決議するものです。
原案可決

意見案
第1号

介護報酬の見直し等に関する意見書
提出者 館内 榮議員
賛成者 菊地光男議員 松橋正樹議員
原案可決



交通安全旗の波

一般質問 要旨

3期12年の総括と今後の去就について



堀 浩和議員

堀議員

現在の地方自治体を取り巻く環境は、年々厳しさが増し、この情報化の時代、急激な変化に対応できなければ、そのまま取り残されてしまう危険な状況であると言われています。

実際に行政運営にあたる町長や役場職員のそれぞれが様々な情報に耳を傾け、住民の安心・安全な生活環境を整えるため日々、試行錯誤しながら業務にあたっている事と推察いたします。

そんな厳しい時代の3期12年

を振り返って、見解の相違はあるものの、中山峠の問題、国道の拡幅、企業誘致、町立クリニックの開設、消防庁舎の建て替え、財政の立て直し等、様々な問題の一つひとつクリアし、一定の成果をあげてきているとは思っております。しかしながら、喜茂別が発展していくためには、まだまだ解決しなくてはならない課題も多く残っているのも現実です。

また、本町は今年、開町100周年という記念すべき節目の年でもあり、記念式典も10月に予定していると聞いております。

そこで、お聞きしますが、町長はこの7月の任期満了にあたり、自らの行政運営を検証し、どのように総括されているのか。また、任期後の7月以降の

考えについて、決まっているのであれば、その決意を含めて伺います。

菅原町長

はじめに、12年間の総括についてであります。

私の12年前の後援会のしおりには混乱する町政に対して、「あきらめません ふるさとづくりを」を基本に、産業活性化による元気づくり、学びや仕事による生きがいづくり、福祉や環境を整える安心づくり、地域や町民との信頼づくり、他町村に負けない自信づくりを町民の皆様へ訴え、約束してまいりました。これらの実現には、12年の月日がかかりましたが、半分以上の約束は守ることができたと思っております。



喜茂別小学校卒業式

ひとりによる成果ではありません。町民の皆様からの助言や活動から教えられ、先輩・現職の職員、また、道派遣の方々に支えられ堀議員が例示しております各事業に一定の成果を得ることができたものと思っております。

さらに、12年の間に議会の構成も変わっておりますが、その時々々の案件に真摯に取り組み、厳しく指導いただきましたが行くべき道を大きく誤ることなく今日にたどり着くことができたものと議会関係者に感謝いたしているところであります。

一方では他の自治体と連携する事業について、喜茂別町の近未来を想定し、札幌市を含めた近隣自治体との連携、羊蹄・後志そして西胆振との連携、その他、国・道レベルの活動に参加させていただくなど、本町の立ち位置を明らかにするための一歩を進められたと思っております。

以上がいろいろ、助けられた12年3期であったということですが、総括をさせていただきたいと思っております。

一方、任期満了後についてであります。一方、任期満了後についてあります。一方、任期満了後についてあります。

また、権力の過度な集中も心配されることではありますが、これらが多選批判の元となり、およそ四期目はその範囲になると

言われております。

また、私の体調についてであります。また、私の体調についてであります。

病名は糖尿病であります。病名は糖尿病であります。

病例が少ないため、完治に向けた研究は進んでおりませんが、上手に病と付き合うことで健康な人と変わらない生活が可能とのことであります。

私が4期目を挑戦させていただくためには、この2点の課題をいかに克服できるかを判断しなければなりません。

過日、これらの課題を理解いただいた上で、これからを担う若い人たちの団体からの推薦の言葉をいただいたところであります。

さらには、堀議員からの質問と、かつ多くの皆様方からの問い合わせをいただきましたが、まず、この場合は答弁において公言すべきであると思ひ、自問自答した上で、来る7月の喜茂別町長選挙に立候補し、町民の皆

様からその是非の判断をいただくことを決意いたしました。今後、後援会の皆様や、諸先輩に相談申し上げ、理解を得たいと思っております。



喜茂別中学校卒業式

次の定例会は、6月の中旬の予定です。
町民の方の傍聴をお待ちしております。

※日程は、IP告知端末又は議会事務局（TEL 33-2211）でご確認ください。

予算と執行方針についての総括質疑 要旨

小川議員

開町100周年記念モニュメントの設置とあるが、どのようなものか。

また、設置することにより、どのような効果が得られるのか。

菅原町長

ふれあいセンターの近くの公園に子どもたちの遊び場を拡張することと伏見地区にモニュメントを設置する。

モニュメントは、羊蹄山と尻別岳と尻別川をイメージしたもので、そこに今回、町章を新しくすることから旧町章と新町章を刻み込み、更に2300個の石を町民の参加によって敷き詰めたかと考えている。

なお、国道沿いなので交通安全を発信する意味も込めたい。将来の喜茂別町がこれまでを尊重しながら、次の未来に向かっていくというような意味合いにしたい。

小川議員

開町100周年に合わせて、「中山峠森の美術館」において、「ふるさと富士展」を開催するとしているがどのような効果が得られるのか。

菅原町長

「ふるさと富士展」は、羊蹄山を想定したもので、本町の子どもたちや富士山麓の富士吉田市、薩摩富士開聞岳のある指宿市などの小学生にふるさとの富士を描いてもらい中山峠の美術館で展示するなど、小学生が、100周年に参加した思い出づくりとしたい。

小川議員

今回「すこやか住宅」を設置することによって、得られる効果と他の集落への「すこやか住宅」の設置も検討しているのか。

菅原町長

「すこやか住宅」は、今後の人口減少に伴う地域の崩壊あるいは自治体の消滅と言われている中で、地域が残っていくことで、中心市街地も残っていくということは明白であり、地域を残すことは切りの口と考えている。地域での様々な形の中で協力いただき、地域との協働という形で進めていける発端とした。

たまたま、双葉地区には、きちとした体制があったので着手したが人口減少対策について条例の見直しも含めて果敢に取り組みたい。

小川議員

今回の地域おこし協力隊について、特に期待している点はないか。

また、過去の地域おこし協力隊をどのように評価をしているのか。

菅原町長

地域に限定した協力隊の募集の仕方、それから福祉に対応した募集の仕方ということで、一定の枠をはめながら進めてきた。

今回は、2本の国道を通過する車両の通行量、地理的条件などをいかした商業等の振興を期待してのことである。

協力隊の評価に関しては、大体7割から8割ぐらいの方が残っている中で、町民の皆様方も必死に協力隊員を支えていく気持ちになっていったと思っております。期待していた活動をいただいていると理解している。

小川議員

チャレンジ事業において、なんにく・アスパラ遮光シート等、いろいろなことに取り組んできたがきらめき味噌などの一部については成功したと思うが全体をとおして成功したという話は聞かない。

現在、味噌やさつまいもの干し芋加工に対して町長はどのように評価しているのか。

菅原町長

一つの商品が出来上がるまでに通常の企業でも、相当な努力をしないとあてられないと思う。10品目考えたから、10品目あたるなんて話にはならないし、例えばアンテナショップをつくるのは、そういう例だろうと思っている。

やはり、チャレンジし続けるということであれば成長は、ありえないと思っている。

さつまいもは、クレードルを中心に商品開発をしており、将来に對して、希望を持てるようチャレンジする方を応援したい。

小川議員

町立クリニック1階に病児病後児保育所を整備とあるが、本町のような地方自治体ができることについては、非常に画期的なことだと思う。
しかしながら、内容の整備が問題だと思う。
そこで本町が今考えている事

業内容について、どのように考えているのか。

菅原町長

病児保育については、保育所において看護師を雇うことなく進めることができる。運営にあたっては、保育士と連携し対応していく。

小川議員

高齢者の働きの場を提供する自主運営組織（NPO法人等）の、発足に対する活動を今後行っていくとあるが、いつ頃を予定しているのか、また、募集にあたって、どのような人材を求めているのか。

菅原町長

NPO法人に限らないというふうに思っています。
法人化は、基本とし、責任を持つためにも、必要だろうと思っている。

元気な高齢者の方が地域の担い手として何らかの形で活動していただけるようお願いしています。
社会福祉協議会と十分話し合

い前へ進めたい。

小川議員

「喜茂別町認知症対策推進計画」の必要性についてどのような考えているのか。

菅原町長

認知症対策が大きな課題となっており、本町も正面から取り組むこととしているが、既に予防対策は進めているので始まっていると認識してほしい。

小川議員

日本ハムファイターズ応援大使とのコラボレーションの一環として、現在、タオルの販売が決定したが、子ども達への野球教室等のイベントなどは考えているのか。

菅原町長

検討しているところであり、実現したいと思っている。

小川議員

本町の存在観は更に大きなものとしており、存在観の「観」という字に観光の観という字を

あえて使っているが、どのような意味があるのか。

菅原町長

あえて「感じる」というところから「観る」という方向に漢字を変えて表現した。

本町は、札幌の隣町で後志の観光あるいは胆振方面への連絡路とし、非常に重要な位置付けでありながら、果たして喜茂別町は皆に認識されているのか、さちつと見ていただけるのかという点では、まだまだ努力不足だと思っている。

確かに物を作って見せるということも重要であるが、本町が中心となって頑張っていくことによって、他の町村にも認めていただくようにしていくということも大事なことでないかなと思っている。

小川議員

教育執行方針について、児童生徒はパソコンやスマートフォン の普及により、普段からコンピュータを使ってインターネットと触れ合う時間が多いと考えられる。

今回ICTによって、タブレット型パソコンを各学校に導入することになっているが、どのような効果が得られるのか。

細田教育長

文部科学省においては、ICTを活用する意義として、課題解決に向けた主体的・共同的・探求的な学びを実現できる点、個々の能力や特性に応じた学びを実現できる点、離島や過疎地等の地理的環境に左右されずに教育の質を確保できる点を挙げている。

最近では、色々な地方でタブレットを活用した授業実践が行われ、その報告書が取りまとめられており、その結果として一点目は、画像や動画・音声等活用した分かりやすい授業を行うことができ、興味関心を高めることや学習意欲が向上する結果が出されていること。

二点目は、児童・生徒の学習の習熟度に応じたデジタル教材を活用し、知識や理解の定着を図ることができること。
三点目といたしましては、ICT機器を用いて、発表や話し

合いを行うことにより、思考力や表現力が向上することなどが挙げられている。

小川議員

ICTを活用した授業をおしゃべり回覧板を使って町民へ公開することは考えているのか。

細田教育長

おしゃべり回覧板を使う考え方よりも開かれた学校づくりの一環として町民に直接観ていただく機会を設けたい。

小川議員

中学校をベースに英語教育を担当される先生を常時配置するとしているが喜茂別町に在住するのか。
また、小学校での英語の授業内容は、どのようなものか。

細田教育長

喜茂別町に住んでいただくという考え方である。
中学校から各小学校へ派遣して、英語の語学の学習及び異文化を学ぶこととしている。



鈴川小学校卒業式

小川議員

図書室の課題解消について、具体的な検討を行うとしているが、どのように考えているのか。

細田教育長

現在の図書室は、施設の老朽化や冬期間の屋根からの落雪が役場の駐車場を狭くする等の課題があり、現在クリニックの3階のスペースの活用を検討している。

松橋議員

地域おこし協力隊とチャレンジブースについては、商工会と連携で事業を展開することになると思うが、今後、この事業を商工会と連携するにあたって、

どのような期待を商工会に持っているのか。

菅原町長

歴史的には大店法の施行により、ほとんど大型スーパーが出店し、小規模店から大型店に客が移って、商工会側が後手を踏むことが続いていた。

この状況下においても、小さい事業者の方々が集まって力を合わせ、地域の顔として再度出発することができるとは思っていないかと思っています。

今回、そのことも含めて、これをチャンスにして次世代の人を育てていく姿勢の中で商工会が取り組んでくれば、私は、新たな道が開けていく可能性があるのではないかと期待をしている。
町の担当部署を明確にしながら進めていきたい。

松橋議員

多面的機能支払交付金事業は、取り組む地区が増えてきたが、町が支援を進める中で、全町的な取り組みとなれば効率が良くと考えられるが、どのように考えているのか。



いきいきライフフェア

菅原町長

地域が再生するという点で大きな要だろうし、特に農村地帯は、ある意味生命線になると思っている。

事務的なものについては、それぞれの地区が持つことが望ましいと考えているが、その地区にリーダーがいないと進まないという現状があると思う。

また、畑が空いていて不在地主となっている場合もあり、そこをどう整理するかといった課題もあるが、極力全体で取り組んでいけるような形をとってきたい。

松橋議員

WiFiが消防署の3階に建設され、動いているが、電波が弱いのか繋がりが悪い状況である。設置目的には、観光振興も含まれていたと思うが、今後どのように進めていくのか。

菅原町長

今後、郷の駅周辺と泊発電所のオフサイトセンターとなっている環境センター近くに子機を設置して電波環境を整えたいと

思っている。

松橋議員

高齢者の働きの場を提供する自主運営組織を立ち上げるとしているが、農業者は、農繁期には人手が足りない状況にあり、この組織とうまくやれたらと思っているがどのように考えているのか。

菅原町長

まさにそういう状況だろうと思っている。

平均寿命が延び、年金額が細っていく中で、生涯一定レベルの生活水準を保つということになれば、元氣なうちに、少しでも働いて貯えないと老後は支えられないというのが現状である。自活できるような、あるいはそれを補うような体制を作っていかなければと思っている。

雇用側とうまくマッチングすることが条件となるが、何らかの手立てになればと思っている。

松橋議員

保育所の運営について、保育士の不足により、入所している

園児を一旦、自宅で看てもらえないのかとの話を聞いたがどのような状況になっているのか。

細田教育長

本町の保育士の配置については、認可保育所として園児の数に応じて、職員と臨時職員の併用により、人員配置をしている。

平成27年度は、標準保育時間の延長を行っており、平成28年度からは病児病後児保育、また、一時預かり保育の開始を予定しており、平成28年度は、職員1名採用を含めて予算計上し、保育体制の充実を図ることとしているので理解してほしい。

松橋議員

家庭で長時間テレビやゲームをする児童生徒の割合が全国と比較して高く、家庭学習時間が短い傾向にあり、本年度は、児童生徒が学校以外で学習ができる環境づくり、仕組みづくりについて検討を進めるとしているが、具体的にどのようなことなのか。

る。

堀議員

本町の食育推進計画は平成27年度から31年度の計画になっている。

この計画を推進するにあたり要となる管理栄養士の雇用が切れるが、町民の健康づくりに繋がる食育の推進、地産地消と一体となった食育の推進、未来を担う子ども達を育む食育の推進の3施策の実現ができるのか。

菅原町長

管理栄養士については、最初から2年の任期付きで雇用し、2年間の蓄積があること、この計画に携わった方も同時に育っていることから、そこに期待したいと思っている。

また、道から派遣の栄養士も給食センター内に配置されているので努力してもらう。

人口が減り、それに伴って地方交付税も減額になる状況の中で職員を増やせる状況にない。

職員の個々の能力を上げるよう人材の育成に力を注ぎたい。

細田教育長

ICTを活用した学校以外での学習を増やしていくことが出来るのではないかと検討を進めている。

松橋議員

食育等の推進について、地産地消をさらに進めてほしいと思っているが、どのように考えているのか。

細田教育長

食育の推進については、食育推進計画に基づいて、実施しており、その中で、地産地消を推進している。

現在、京極町の給食センターから受けている学校給食の中で地産地消がどれだけ行われているかということについては、京極の学校給食センターで仕入れている材料の多くはJAようていから仕入れているので広い範囲では地産地消が進められているという判断をしている。

堀議員

ふるさと応援寄附条例が喜茂別町でスタートするが、国は、

堀議員

チャレンジ作物のさつまいもの干芋は、販売した結果、評判が良い。

新規チャレンジショップで何件かの農業者が取り組んでいる。組織として、もう少しまとめて芋の量を確保するような形になれば、いつも売り切れているような状態が解消され、生産者も、もっとやる気が出て、生産量も上がるように思うが。

菅原町長

残念ながら全体で動いているとは思っていない。

主たる生産物があるので、片手間の生産となり、失敗してもチャレンジなのだからという思いがどこかにあるのかもしれない。

やっていくという意志を固めていただけるように進めることは行政の責任と思っている。時間をかけて進めていきたい。

堀議員

ウォーキングロードが完成したが、喜茂別橋からコースの中で一部、小石が敷き詰められて

いない部分があるが、今後、敷き詰めていく予定はあるのか。

また、新たなロード認定を目指すところがあるが、別の道路も考えるということか。

菅原町長

管理は、北海道なので要望していく。

新たなところでは、パークゴルフ場の周りの堤防を現在のウォーキングロードの延長として検討している。

堀議員

町立クリニックが開院し、約3年が経った。

この間、町の医療機関として町民の方々が随分と安心感を持ったと認識しており、医師や看護師の努力によって信頼される医療を提供してきたのではないかなと思っています。

しかし、このたび、医師と看護師、2人が異動になる話を聞いているが、核となっている人がいなくなることで、診療体制がマイナスにならないのか。

細田教育長

鈴川地区は、地区のまとまりが強いところだと感じている。

地域の特性を活かした教育は、地域の人材を活用して地域の歴史、産業などを学んだり、開かれた学校づくりを更に進めることにより、地域の方々が学校へ足を運んでいただき、地域を挙げて子ども達を育てる環境づくりを進めていくことだと思っています。

また、小規模校は、その時々課題に柔軟に対応することができるとは思いますが、大規模校にはできない教育活動を進めたい。

現在も、特色ある学校運営がされており、さらに取り組んでいきたい。

館内議員

老朽化対策としての、旧喜茂別中学校の寮の取り扱い、どのように考えているのか。

菅原町長

一帯の施設として企業誘致に結び付かないか何度かチャレンジしているが結びついていない。

菅原町長

医師については、都会から来て、家庭医という形ではなく、救急医から入られたので、戸惑いはあったとは思いますが、地域性に適応するよう努力されたようである。

今後、法人としても、本格的に家庭医療を目指す先生や、もう既に認定されている先生で対応することになっている。

看護師については、特にICTに係わる4か町村のネットワークで中心的な役割を果たされていたので、他の町村も含めて、非常に残念がっている。

本町としても特定看護師ということで、在宅の一部治療に向けて当初考えていたが、それが全くでなくなつたということが残念である。

新しい先生の往診が適度に行われれば、それを補うことはできると思っている。

堀議員

高齢者の働きの場を提供する自主運営組織については、社会福祉協議会と連携するとしているが、社会福祉協議会の職員を

NPO法人等に参加させる考えはあるのか。

菅原町長

社会福祉協議会と何らか協議をしたが、体制が整わない実態がある。

高齢者比率が上り、様々な諸課題に対応するため早急に進めていく必要性から、役場が音頭取りを担うこととした。

構成員としてNPO法人が認めるかどうかという問題もあるが、役場としては、数年関与し、自主的な活動に繋げていきたい。

堀議員

教育行政執行方針では、開町100周年の件が一行も載っていないがなぜなのか。

細田教育長

100周年の記念事業は、いわゆるワントップ、窓口を1つにして、事業を推進していくという方向性が町長から示されている。

全町挙げて取り組むべき事業であり、教育部局においても学

本町もブースを設けて、考えてみてはどうか。

菅原町長

もう少し条件整備をして来年そういうところへ出るチャンスがあれば、思い切つてやれるかもしれないと思っており、本町の農業の特性等を説明し努力していきたい。

館内議員

企業誘致について、「きずな農場」は、当初の予定では、3月中までにという話があったが、その後、進んでいるのか。

菅原町長

今回、変更で出てきているのは、6月に稼働させたいとしている。

しかし、国際情勢や生産物を考えると信頼できる情報と思えないので、3年間、全面的に応援することはしないで様子を見ながら旧中学校の体育館を貸すことは可能である話をしている。

企業の努力に期待したいと思っている。

校において絵画コンクール等に取り組むこととしており、多くの子ども達が記念事業に積極的に参加できるよう努めたい。

堀議員

一時預かり保育を実施するとしているが、保育士の人材不足の中で、実施できる体制をつくることのできるのか。

細田教育長

一時預かり保育は、保育の必要が無い家庭で子育てされている方が対象で、親が急な疾病や用事等が出来た場合に一時的に子どもを預かる制度である。

保育所の定数内で預かる考えであり、現状より急激に利用者が増えないと考えている。

したがって、平成28年度に向けての職員配置の中で十分対応できると考えている。

堀議員

鈴川小学校は、当面、存続するとの方針の下、小規模校としての特性と地域の特色を活かした教育を実践するとしているが、どんな教育を目指すのか。

館内議員

教育行政に関して、過去に入れた電子黒板は使っているのか。

細田教育長

ICT化の推進については、数年前に学校において、電子黒板の導入等含めて、ICTの整備が行われた。

その中の1つが電子黒板で、活用状況は、頻繁に使われているという状況にはない。

ICT全般を考えると、例えば、この電子黒板を活用した学校との交流学习というものの活用が促進されているので、今後は、この電子黒板を活用した交流学习及び授業の推進が図られるものと考えている。

館内議員

入れたものを有効に活用するというところでなければ、ただ国のお金ばかり使っちゃっても、学力向上にも繋がらない。

余計なお金を使って入れない方が良くと思うが。

細田教育長

余計なものか余計なものか

いかは見解の相違とするところであるが、先程申し上げたとおり、電子黒板は、他の学校との交流学习又は発展させれば、ICTを活用することによって、海外の学校とも交流学习をすることが可能になる。

学習の幅が広がることもあるので、今後の利活用次第となる。その辺を考慮しながら、学校教育の中で利用の活用促進について検討していきたい。

越後議員

中山峠の観光施設の維持費と賃貸料を考えると、現状では収支の上でプラスにはなっているが、今後、その方向性についてどのように考えているのか。

菅原町長

貸している企業に交渉しているが、企業理念もあり、単純に借りていることになれば、違うところに事業展開していく考え方で発展してきた企業である。

そういう点では、投資するお願いは出来かねるところであるし、反応が鈍い状況にある。黙って見過ごすと老朽化でお

金がかかってくるので、まだ分らないが、このままいつても難しい部分になれば、予算の範囲内で、取り壊しをしていかなければならないと思っている。

一方で、今年度から国道230号線の中山峠は、本格的にトンネル化について、要望を開始することになる。

様々なところに無理はあるのは承知の上で、喜茂別町の生き残りだということになれば、中山峠の存続っていうのは、今後、夏場だけというような可能性も出てくると思う。また、こうしたニュースが流れると、なおさら、私が借りて何とかしましようという人が出にくくなる可能性はある。

この状況を考慮しつつ、現施設を、極力経費を抑えながら、維持させることで次の展望を考えた方が得策ではないかと思っている。

越後議員

後志振興局において年間を通した雇用対策を協議する組織が立ち上がったが、本町にとって効果があるもとを考えているのか。

管理費がどんどんかかっているのであれば、当然考えなくてはならないと思っており、再度その計画を検討したいと思っている。

菊地議員

最近の議会活動における私の疑問点として、町長の答弁の中で、前向きな答えをしていた事案がその後において何ら取り組まれていないことが多々あるように思っている。

その一例として、定住促進事業関係の予算統合については、以前の答弁では、統合するとしていたが、今年度の予算書を見つけた限り、従前と同じような提案内容になっている。

議会の答弁の重要性について、町長はどのように考えているのか。

菅原町長

菊地議員がそう感じているという点では、反省している。

議員の皆様方の意見は出来るだけ尊重して私も予算反映だとかそういうことには、質問を受

菅原町長

雇用環境は、その年、その季節で変わってくる要素があり、それが果たして農家経営等において、計画的なものになるかは、難しいと感じている。

今は、団体として取り組むということ、実態はアンケートの結果を見ても現実に労働力が確保できるかは、まだ未知数だと思っている。

このような形になればという願いはある。

越後議員

町の各条例の条文において、様々な規定の後に町長が認めた場合等、町長の裁量でなんとでもなる規定がある。

これについて、町長が認める事項を具体的に定めるべきだと考えるが見解を聞きたい。

菅原町長

現実問題として、条例の大半は、そういう形で記載されて皆様に認めていただいている。

それが良いかどうかは別として、その規則ごとに詳しく基準を設けると、多大なケースが考

えられ現実的とは言いがたい。町長の範囲内の適用については、できるだけ避けるように心がけている。

越後議員

国保会計の決算から予算の流れについて伺いたい。

平成26年度の決算では余剰金が数千万出ている。

また、平成27年度の決算においても、基金を取り崩して対応する予定が繰入せずに済んだ。

当然の結果として、ルール分以外の一般会計からの繰り入れもない中で、余剰金が出ている。

この2年間の状況を見ると過重とは言われないが必要以上の国保税の賦課があったという見方もできる。

こうした状況を踏まえて、上限を決めた範囲内で手直しを検討できないのか。

菅原町長

国保会計を運営する上で難しいのは、医療費がどれくらいかかるか予測することである。

それによって必要な財源を確保する中で税率を算出していく

含めて役場職員と比較してかなり開きがあると認識している。

人口が減少する中で、確実に対象者は減っていく。

でも、これからのサービスを広げていくことによって、確実に高齢者対策っていうことに大きく町の生命線がシフトしてしまふということになる。

したがって、人口にあつたサービスを考えていかなければならないと思っている。

そういう意味では、社会福祉協議会の方には、十分な報酬にはなっていないのかもしれないが、自らの収益事業もやれるわけであり、これも含めて頑張っではしい話は随分してきたつもりである。

再度、議員指摘の給与等について、精査したい。

菊地議員

役場職員に対する日常的なサポート体制の関係について質問をしたい。

国内企業における雇用環境が改善の傾向になっており、就職を目指している学生にとって、売り手市場であると報じら

れている。

こうした傾向は、非常に喜ばしいことではあるが一方では一旦、就職したにもかかわらず、何らかの理由によって、早期に退職するものも少なくないという報道もある。

報道によると、企業内におけるパワハラ、各種のハラスメント、職員の仕事に対するサポートの欠如等が挙げられており、職場環境の改善が求められているというような内容が多い。

これらのことは、民間企業の中だけではなく、官庁関係においても例外ではないと言われている。

本町の状況を見ると、役場職員が精神的なものが要因とする欠勤や過去においても、中途退職者が少なくないと感じている。

つまり、役場職員に対する仕事上での日常的な支援体制が十分ではないかと感じている。

私は、役場職員としての土台となる知識の習得のための研修に講師を招いて行うこともよいが、ベテランの役場職員から日常的に職員が学ぶこと、特に新しく入った職員が学ぶ研修が必

要ではないかと思っている。

これは重要な政策として位置づけられると思うがどのように考えているのか。

菅原町長

一般論として話すが、本町では、次世代を担う職員を育てるのは急務であり、職員の年齢バランスを想定して人材の育成に取り組んでいる。

ここ数年2、3年で管理職が総入れ替えし、次の管理職が登場してくるということになる。

これに対して、若いうちから現場を踏ませるなど努力をしている。

昨年は、管理職が講師となって新人職員を中心に10数回講座をもつて行った。

これを受けて、今年は、外部の講師を招いての研修を行っている。

また、職員でチームを組んでテーマを決めて視察をし、その報告会も行ってきた。

このように人材の育成には手厚く行ってきた。

しかし、それで職員が、現実

きている状況にある。

本町に限ったことではないが人付き合いがうまく出来ないというようなことが原因の1つであると思う。

これに対しては、外部のサポートセンター等をお願いをして、そこで指導を受ける体制をとっている。

ただ、仕事の処理能力は、一定の負荷がないまま成長していくことはあり得ないと思っており、個々の努力が必要であると思っている。

そんな中で、一人ひとりに負荷がかかってくることもあり得る話であり、職員定数等も考慮しながら、できるだけ人間関係づくりも含めて職員一丸となつてやっていきたい。

菊地議員

私の質問は、町長の姿勢を追及することではなくて、役場がこれから円満にやっていくためにはどうしたら良いかということである。

職員同士の輪をもつ中で役場の中が、笑いが増えるようなそういう職場環境にしてほしいと

の願いからである。

菅原町長

私も職場に笑顔が溢れることが町民に対しても良い影響を及ぼす、信頼される姿になると思つて努力しているつもりである。

ただ、その努力が見えないという指摘だと思うので、これは真摯に受け止めていきたい。

ただ、厳しさは厳しさとして、なければ、笑顔だけでは仕事は進んでいかないと思っており、これをどうバランス良くやっていけるのかということだろうと思っている。

これを使い分けしながら努力していきたい。

松田議員

今年は、町長の改選期であることから可能な限り骨格的な予算編成に努め、新体制による政策の充実に期待することとしているが、恐らく暫定予算を組んだのだらうと思っている。

そこで歳入の確保について、2、3年前から基金を多額に取り崩すことが顕在化していると感じている。

骨格予算でありながら昨年度よりも基金の取り崩しが増えているということに対して違和感を持っている。

私見として、一例を挙げれば、今まで町長が進めてきたアウトソーシングや指定管理制度の導入が大きな要因として考えられると思う。

これを解決していかなければ、次年度以降の予算編成においても、基金を取り崩して、予算編成をすることになる。

結果的には、政策予算ではないということ、理解はできるわけだが、来年度以降どのような考えているのか。

菅原町長

一定の基金としては、3億から5億ぐらいは常に持っているなければならないと思っている。

ほかに、特定目的の基金も、ものの考え方として必要である。

来年度予算は、確かに硬直化しているのは間違いない。

意見としては、直営でやっていけということなのかもしれないが、その時の状況下において

は、これまでの経験にもまして大きな議論を中山峠を含めてやってきている。

私は、二度とそこに戻ることにはならないと思っている。

予算の硬直化は、まさにその通りで、私も職員を増やさないで対応できるように考えているとしている。

それから、税収は確実に減っていく、交付税も減っていくなど大きな試練の時代に、きちつとした財政面の対応策を持たなければならぬだろうと、いろんな手立てをしている。

予算編成は、優先度を考えながら、約束は出来るだけ守ることを念頭におきながら、挑戦してきたつもりである。

松田議員

我が町の子どもの学力の向上には、相当注意を注いでいかないと、汚名が挽回できないという側面があると思う。

そこで問題なのが報道で取り上げられた汚れた教科書問題である。

この汚れた教科書を使って学力を向上させてもらいたくない

という思いがある。

この問題となっている教科書について、どういう認識を持っているのか。

細田教育長

この問題は、昨今、報道でも数多く取り上げられた問題で、検定前に教科書の事前閲覧が行なわれ、その代償として、報酬があった場合もあるし、閲覧だけで終わった場合もあるということである。

教科書の採択にあたっては、各地区において、教科書採択の協議会が設置され、その中で選定が行なわれる。

本来、教科書業者は、教科書を選定する者との接し方について十分留意される必要があると考えているところであり、営業的な活動は厳に慎むべきものだと私も考えている。

本町の教育委員会では、そのような教職員があつたような報告はないので、対象は無かつたものと考えている。

松田議員

調査の方法は、どうだったの

か。

町村の教育委員会は、その調査に参加したのか。

細田教育長

各市町村の教育委員会がこの調査に関わってはいない。国及び都道府県で教科書業者にあたって調べている。

松田議員

本町で採用する教科書についても、汚れた教科書を使う可能性は否定できないと思う。

こういう問題は、由々しき問題だと思ふ。

地元の教育委員会もやっぱり重大な関心を持って、どうしてこういう問題が起きるかという原因を認識した上で、汚れてない教科書を使って、是非、我が町の学力向上に努めていただきたいと思うが。

細田教育長

検定前に閲覧行為があつた事実が判明したことをもつて教科書が汚れているのかどうかは、別問題だと考えている。

ただ、そういうことが起きる

根底にあるものをきちんと市町村教育委員会も捉まえるべきだという指摘はその通りだと思う。

その根底にあるものをわきまえながら、適正に対処したい。

戸井議員

本町は、何年も前から過疎化対策で相当な計画を立てて、事業をやってきたと認識している。

そんな中で、企業誘致や福祉施設も建てられ大きな政策も行ったが、その割には、人口が年々減り続けている。

また、近年、既存企業の発展性が見えてこない状況にある。

この状況を総合的に考えて、今後の過疎化対策をどのように考えているのか。

菅原町長

まだ、はつきりしていないが、外国人による学校の開設というようなことも含めて、挑戦的にトライしていかないと人口増には、繋がらないと思っている。

今日まで、議論されてきた全てを網羅した形で対応してい

ないと本町の魅力というもののは、移住される方や挑戦されて来られる方に伝わらないと思う。

指摘の点は、真摯に受け止めて本町の過疎対策の柱にした

戸井議員

町政を実現するためには、事務方トップの副町長から管理職、係長クラスという形で指令が出ると思うが、過去において予定していた事業ができなくなったことで何度か理事者の処分案が出てきたが、私はその原因に管理職の人事異動の際にきちっと引き継ぎがされていないのではないかと思う。

また、それを統括している副町長はどのように見ているのか疑問を感じている。

役場機構が風通しが良く一丸となつて取り組めるような対応ができないのか。

菅原町長

要約すると、私の命令系統がしっかりしていないということ、風通しが悪いということだ

ろうと思っている。

これは、私の力量の限界なのだろうと思っているところであり、今後、職員に理解できるような努めたいと思っているが、非常に厳しい職員対応になっているのが、災いしているのかもしれない。

職員は、一生懸命自分の力量の中でやっているものと思っており、それをうまく活用できないのは、一身に私の責任だと思っている。

その上で、心機一転取り組みさせていたきたい。

これは、選挙をくぐらなければならぬので、ここで芯を通して、厳しい批判を受けることを覚悟でやっていきたいと思っている。

編集後記



雪解けとともに、山々の木が黄緑に輝き、一段と春を感じさせる季節となりました。

今年は、例年に比べ暖かい日が続いたことから、農作業が順調に進むのではないかと思っておりましたが、最近の不安定な天候状況が影響し、例年と同じような傾向となっております。

さて、本年における我が国の大きな話題は、全世界が注目の中、5月には伊勢志摩サミットが開催され、世界の各地で起きているテロ対策等が議論の中心となると報道されております。

また、7月には参議院選挙が予定されており、今回の選挙から選挙権が18歳以上となることで、選挙の結果が、今後の政局にどのような影響を及ぼすことになるのか、予想が一段と難しくなる中で、各政党の関係者は選挙の行方が大いに気になることと思います。

本町においても、7月に町政の舵取りを担う町長選挙が執行されることから、あわただしい1年になると思いますが、昨年、町民の代表として、新たに選出された9名の議員が議会活動を通して、町政が健全に執行されるためのチェック機能としての役割を、町民に成り代わり果たしていかなければならないと思っております。

広報編集委員 菊地 光男